

## わくわくしてページをめくりまます。希望の物語 第三章を

北野小学校長 丹羽 郁人

あけましておめでとうございます。

令和五年。新しい年を迎えました。希望に満ちた年です。物語が始まります。ここ、北野の地に吹く風も、差し込む光も、あたたかく、穏やかな、小春日和。澄み切った青空に、新たな決意を胸に、人々が行動を起こします。今年も、わくわくした気持ちで登校できる学校でありたいな。ぼかぼかした心で下校できる学校でありたいな。

学校でしかできないことをやります。

それは、人と人との「かかわり」です。そして「協働」です。

先生方と子供たちとかかわり、ふれあい。そして、子供たち同士のかかわり、ふれあい。先生に会える。友達と会える。友達と一緒に〇〇がやれる。

——わくわくする。さあ、学校へ行こう。

子供たちのよさを見つけ、認めます。子供たちの成長を（それが、ほんのわずかな変化であっても）喜びます。そして、成長を、変容を言葉にして伝えます。

先生に褒められた。友達に認められた。友達のよさや自分の成長を実感できた。

——ぼかぼかした心で、学校をあとにする。

そんな学級でありたい。そんな学校でありたい。

共に歩もう。そして、共に、物語を紡ごう。

この子たちと紡ぐ物語は、未来へと続く希望の物語に違いありません。

この二十一世紀を、逞しく生きていつてほしい。それは、すべての子供たちにかける思いです。子供たちの「生きる力」を育みたい。そのためには、いろいろな力を身につけることが必要ですが、とりわけ大切なのは、「自分で考え、判断し、行動できる力」であると思います。ところが、今までの学校教育では、知識を与えることを重視してきました。先生の話聞いて知識を得ることはもちろん大切ですが、もっと必要なのは、自分で問題を見つけ、考え、判断していく力を養うことです。

本校では、「生きる力」を子供たちにつけることを教育目標に、「探究型」で「協働的」な授業を目指して取り組んでいます。授業改善をしていくことは、我々教師の使命であり、ライフワークであり、そしてやりがいでもあります。子供たちの「できた」「わかった」というつぶやきは、我々教師のエネルギーの源であります。

そして、子供たちの「自己肯定感」を育むことにも、大切に取り組んでいます。それは「生きる力」の根っこになるものです。子供たちの小さな変容や成長を見逃さず、見つけ、認め、価値づける。他人と比較したのではなく、その子の変容や成長を、共に喜ぶ。本校の教職員は、そんな人たちです。

子供たちの成長を我が事のように喜ぶ北野小教職員は、今年も子供たちと共に、物語を紡ぎます。

それは、未来へ続く、希望の物語です。

今年も、わくわくした気持ちで登校できる学校でありたいな。ぼかぼかした心で下校できる学校でありたいな。

我々がわくわくして、さあ、そのページをめくりまます。希望の物語 第三章を——。

(二〇二三・一・一三)

